

GIGA スクール構想・タブレット端末 1人1台 そのねらい・実態・未来 レポート（上）

「先週は青森、明日からは大阪の学校周りの出張ですよ」と情報産業の大企業の社員が話してくれました。「えっ、学校でどんな仕事を？」と聞くと、「学校のICT環境の整備やタブレットでこんな授業ができます」という先行事例の紹介、先生方の研修・・・」

携帯で「GIGA スクール構想とは」で検索すると文科省の上にマイクロソフト・リクルート・KDDIなどの広告が出てきます。タブレットを使った授業紹介がこうした情報産業の大企業のHPに山盛りです。

国内 PC 出荷台数 1,530 万台
(2019年度)
(個人向け 433万台、法人向け 1097万台)
日本の小中学生 958 万人

実に昨年度の国内のパソコン出荷額の3分の2が今年、一気に学校で配布されはじめました。

コロナ禍の中、学校が休校になってもオンライン授業が受けられるように・・・ではありません。「コロナ対策予算」で政府の3年計画の「GIGA スクール構想」がいきなり前倒しされたので、「すべての業界関係者が予測を外した」（共同通信）事態になったのです。

「GIGA スクール構想」とは？

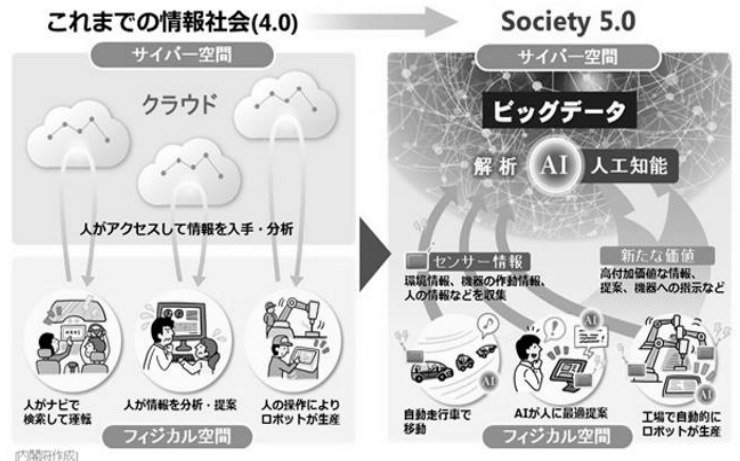
GIGAとは、Global（世界的）and Innovation（革新）Gateway（入り口）for Allを略したもの、「全ての人にグローバルで革新的な入口を」と説明されています。

「誰1人取り残すことなく、子ども達1人1人に個別最適化され創造性を育む教育ICT環境を実現する施策」と文部科学省は説明しています。

その具体化のために、「子ども達への1人1台端末と高速で大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多彩な子ども達の資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する計画」と説明されています。

未来社会に必要な構想？

下の図は、内閣府のHPにあります



新しい時代は「Society 5.0 時代」（Society＝社会）であるとして、それに対応した政策（教育も）を進めるのだと説明しています。【「Society 5.0 時代」＝狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会＝人間中心の社会（Society）】

「人工知能（AI）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されます。希望の持てる社会・・・と、人工知能によって未来はバラ色だと描いています。

その一方で、文科省は、「予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成」するために「令和時代のスタンダードとしての1人1台端末環境」のため予算を措置すると説明しています（文部科学大臣メッセージ）。

歴史学会で共有されていない「未来は Society 5.0 時代だ」と断定し、そのための構想だと説明しています。

しかし、内閣府のHPのどこを見ても、今の社会の様々な課題（貧困と格差の広がり、人類共通の課題である気候変動・食糧問題・環境問題等）をどう解決して未来社会に向かうのか、その説明はありません。

では、こうした構想を推進する母体として動き出したものは何か？ 5月28日に設立された団体をみていくと構想の本当のねらいがみえてきます（続く）